

## 第24回介護・医療連携推進会議議事録

日 時 令和6年4月5日(金)  
14:00~15:00

場 所 巽病院定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所箕面

参加予定者 地域住民の代表 : 山中和雄  
市の職員 ; 広域福祉課(地域密着・総合事業グループ)  
山本梨絵  
地域包括支援センター : 上田健太  
医療関係者 : 山角優美  
有識者 : 中谷茂子  
当事業所 : 木村律恵・小林陽子(司会)  
森田美恵子(書記)

※敬称略

内 容

- (1) 現状報告
- (2) 利用状況について
- (3) 活動報告
- (4) 質問・その他

箕面市中東部包括支援センター 上田様より

Q、箕面市のどの辺りまで回っているのか？

A、止々呂美までは対応していないが、東は粟生間谷の辺り、西は新稲の辺りまで訪問している。遠方の方でも、訪問介護の利用者と上手く組み合わせてルートを確認出来たらと良いと考えている。

Q、一人の利用者に何人のヘルパーで対応しているのか？

A、3、4人で訪問している。オンコールに対応するため出来るだけ多くのヘルパーが訪問可能な状況にしておく必要がある。

民生委員 山中様より

Q、昼食準備とはどのような事をしているのか？

A、調理などはしておらず、家族様が用意されている昼食をどれにするか選んでいただき、準備の見守りをしている。

Q、一人になる事があるのか？一人の時はトイレ等大丈夫なのか？

A、妹様が留守になる時はヘルパーが訪問するが、ヘルパーの訪問時以外は一人で

過ごす事になる。基本、一人でもトイレに行ける方なので大丈夫だと考える。転倒の際や、何か困った事があった場合は、緊急通報装置を押すよう伝え、近くに置いてもらっている。(小林 SMG)

広域福祉課 山本様より

Q、異病院から自宅に帰られるまでの流れはどのようになっていますか？

A、支援相談員がケアマネージャーと居宅の情報を共有し、ご本人の状態やご家族の介護力などから、現状在宅復帰は難しいとの判断になれば、老健入所や療養型の病院に転院となり、在宅復帰の目途が立てば、自宅でのサービス利用の調整を行うが、重症度や医療度が高いと在宅復帰が難しい事が多い。(中谷施設長)

在宅復帰されても、生活が安定していなかったり、医療度が高いと単位数がまるめの定期巡回サービスの利用は難しい。(木村 MG)

木村 MG より

石橋で要支援の利用者の服薬確認に毎日対応し、区分変更で要介護となり、そのまま定期巡回サービスの利用者になったという事例があった。箕面の事業所も緩和型、訪問介護、定期巡回サービスと三つの事業所を持っており、介護度が変わってもスムーズにサービスを繋げて行けると思っている。

次回

日時：2024年10月開催

場所：異病院定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所箕面 予定

以 上